

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<6週> インフルエンザ 今シーズンの流行は今後落ち着く見通し / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<インフルエンザ流行状況> 2000年第6週(2月7日～2月13日)現在、全国定点医療機関からの報告患者総数は112,576件で、定点当たり24.63と、第5週をピークとして急降下している



病原体情報  
P.5

インフルエンザ A/ソ連型ウイルス(H1N1)分離報告は724と、A/香港型ウイルス(H3N2)に対しやや分離が多くなっている / 感染性胃腸炎 一部地域でのSRSVとロタウイルスの検出報告



IASRからの速報  
P.6-7

老人福祉施設におけるインフルエンザ集団発生 滋賀県 / 群馬県における1999/2000シーズンのインフルエンザの動向



海外感染症情報  
P.8

爬虫類ペットと関係した致死的な新生児サルモネラ髄膜炎 / 天然痘研究諮問委員会報告 / 中央アフリカ共和国の髄膜炎菌性髄膜炎患者の増加 / ドミニカ共和国におけるマラリア続報



感染症の話  
P.9-11

狂犬病  
狂犬病ウイルスを保有する野生動物を媒体として感染する人獣共通感染症



読者のコーナー  
P.12



グラフ総覧(6週)  
P.13-19



6週のデータ  
P.20-27



# 発生動向総覧

第6週コメント 2月18日集計分

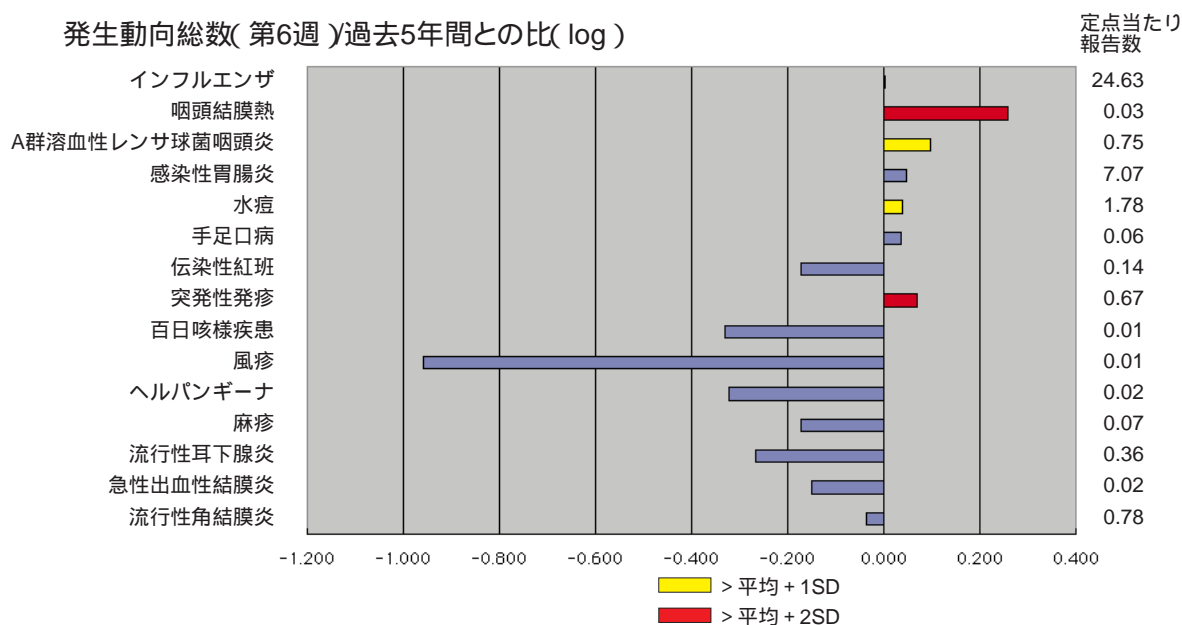
## 全数報告の感染症

- 1類感染症の報告はない。
- 2類感染症: 細菌性赤痢7例( 推定感染地: モロッコ2例、インドネシア2例、国内1例、インド1例、タイ1例 )  
腸チフス2例
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症は21例報告されている。
- 4類感染症: アメーバ赤痢1例、  
急性ウイルス性肝炎8例 A型7例\_すべて国内感染  
B型1例  
後天性免疫不全症候群4例、ツツガムシ病1例、梅毒4例、レジオネラ1例

## 定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

インフルエンザは前週に比し定点当たり報告数が減少している。定点当たり報告数が50を超えた都道府県はわずかに1県のみであった。ここ5年間ではインフルエンザの流行ピークは第4週か第5週となっているので、例年の傾向からすると今年の流行もすでにピークに達し、今後患者報告数は減少するものと考えられる(インフルエンザ流行についての詳細な解説と分離ウイルスについては4ページインフルエンザ流行情報参照)。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘の定点当たり報告数が例年の同時期より多い。水痘は依然九州地方で定点当たり報告数が多く、そのほか沖縄県、福井県、静岡県、香川県でも定点当たり報告数が多くなっている。麻疹は大阪府で昨年末より流行がみられ、今週も堺市などから報告が多くなっている。非流行期の咽頭結膜熱の定点当たり報告数も例年より多くなっている。

発生動向総数(第6週)過去5年間との比(log)

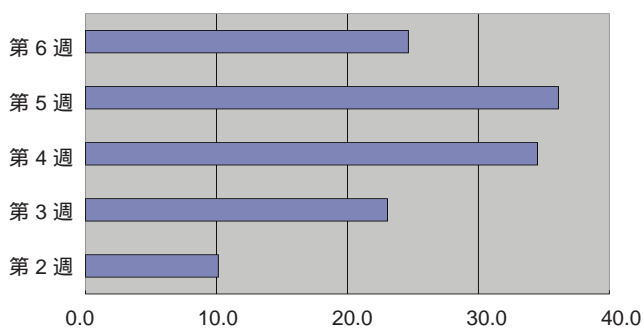


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

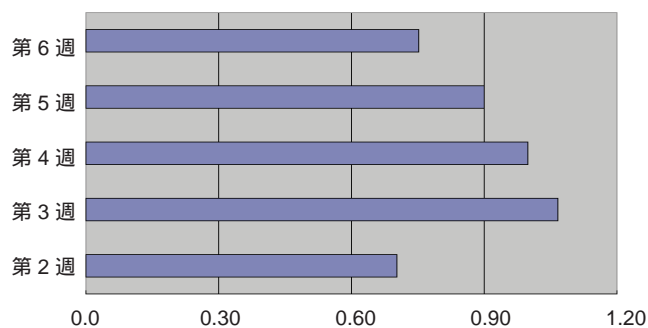
## 最近の注目疾患-5週間の動き

インフルエンザは、前週の定点当たり報告数が36.2、今週は24.6となっており、前週より大きく減少している。定点当たり報告数が50を越えているのは富山県のみで、そのほか大分県で47.5などで報告が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘はこしばらく定点当たり報告数が前週を下回っている。麻疹患者の定点当たり報告数に大きな動きはないが、複数の都道府県でまとまった数の患者報告がみられる。麻疹は例年春にかけ流行曲線が上昇するので、今後も疾患の動向に注意が必要である。

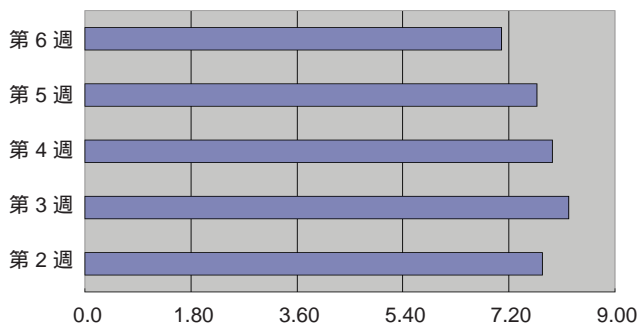
インフルエンザ



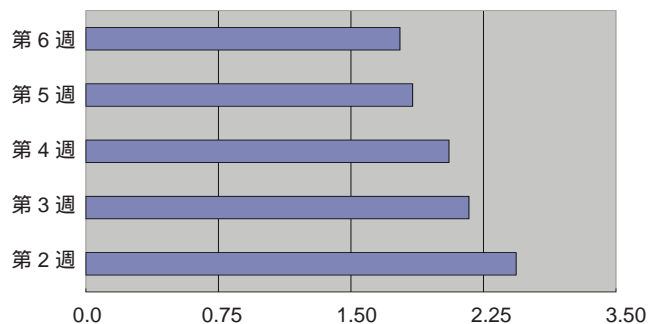
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



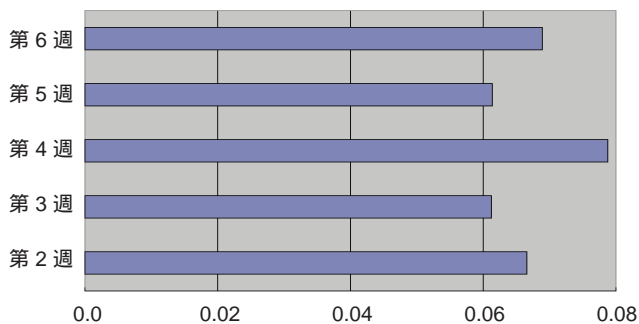
感染性胃腸炎



水痘



麻疹



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

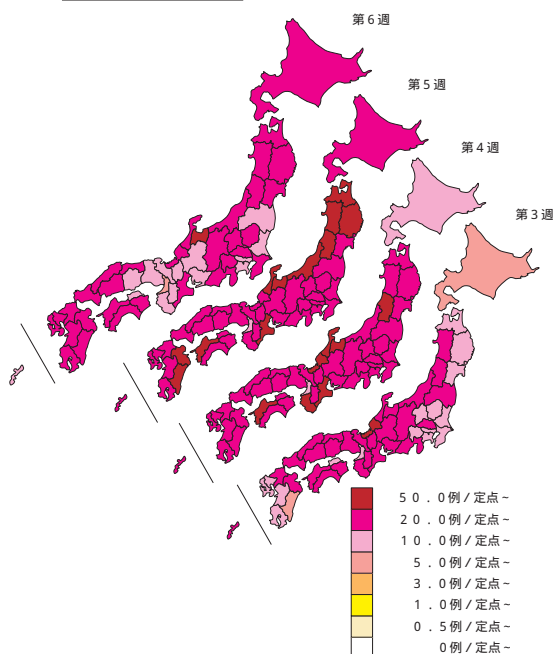
## インフルエンザ流行状況

2000年第6週(2月7日～2月13日)現在、全国定点医療機関からの報告患者総数は112,576件で、定点当たり24.63と、第5週をピークとして急降下している。都道府県別でも、以下の地図グラフで見られるように、減少に転じたところが多くみられる。ウイルスの型は、ほとんどの都道府県にて、A/ソ連型とA/香港型が混合して分離されており、全国的にA/香港型とA/ソ連型の混合流行であるが、これまでB型が2件分離されており、例年B型が出る場合には、A型の流行の最後の方にでてくることが多いので、しばらくはB型の動向に注意する必要がある。

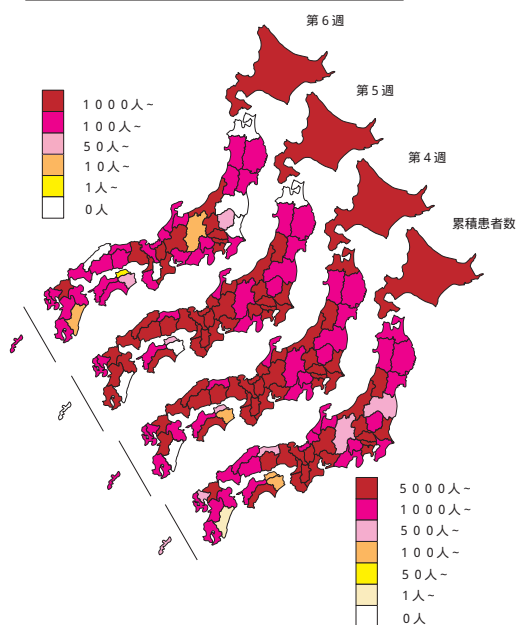
インフルエンザ様疾患発生報告(第13報、平成12年2月6日～2月12日)によると、この週の学校での患者数は64,974名、欠席者数は32,127名と前週の半数ほどになり、昨年同時期と比較しても半数以下となっている。総患者数は平成11年11月7日からの累計で428,203名(昨年同期412,251名)、総欠席者数は累計で223,897名(昨年同期200,421名)となっており、現時点では昨シーズンと同程度の報告数となっている。

今シーズンからインフルエンザ疾患関連の死亡者数の迅速把握が開始されたが、それによると、今シーズンのインフルエンザにおいて、平成12年2月17日現在、平成11年12月以降、インフルエンザに関連した死亡者は、累計76件が報告されている。年齢別内訳は、0歳以下0件、1～4歳7件、5～9歳3件、10～19歳1件、20～39歳2件、40～59歳6件、60～79歳22件、80歳以上35件で、60歳以上が75%を占めている。

発生動向調査  
(6週時点)



インフルエンザ様疾患発生報告  
(学級閉鎖に伴う患者調査)

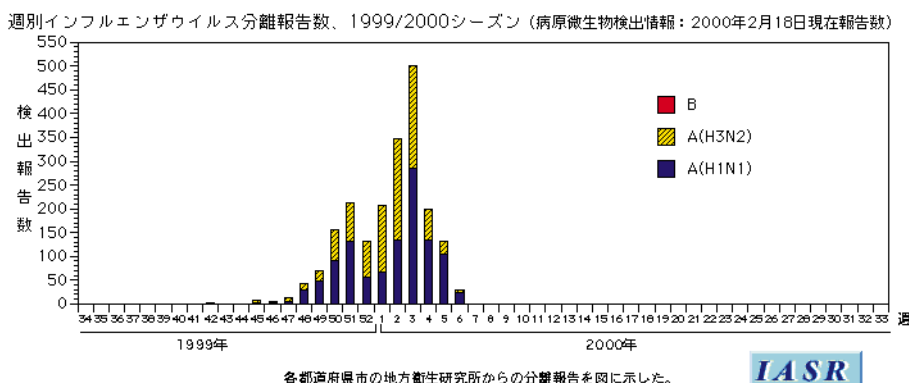




# 病原体情報

## インフルエンザ

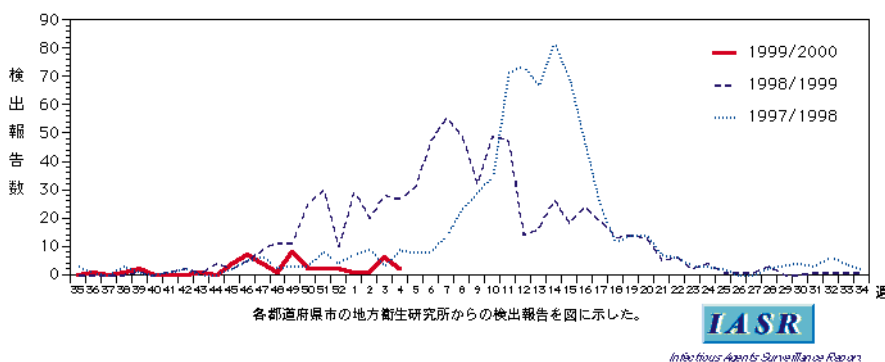
病原微生物検出情報事務局に入ったインフルエンザ分離報告をまとめると、2000年1月1日から2月18日までに分離されたA/香港型ウイルス(H3N2)は663、A/ソ連型ウイルス(H1N1)は724とややソ連型の分離が多くなっている。今シーズンのB型分離報告は2月14日報告分まででは2である。



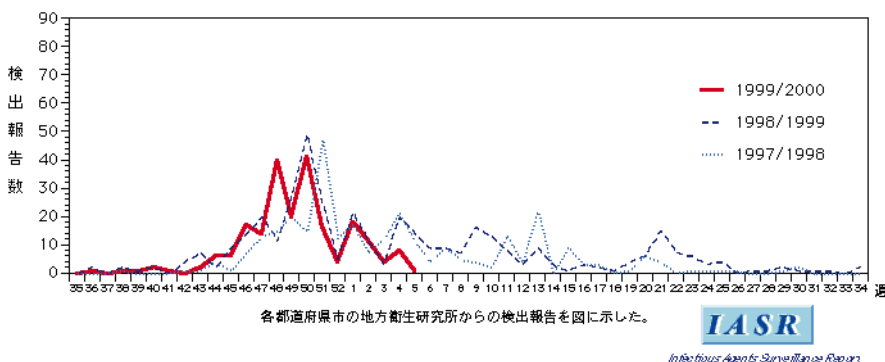
## 感染性胃腸炎

2000年に入り新潟県、岩手県、栃木県、山梨県、大阪府、北九州市からSRSVの検出報告がある。ロタウイルスの検出報告は今シーズンは低めに推移しており、2000年に入って大阪府から5件、新潟県と岩手県から3件ずつの検出報告があった。

週別ロタウイルスの検出報告数、シーズン別比較 (1997/1998、1998/1999、1999/2000)  
(病原微生物検出情報: 2000年2月18日現在報告数)



週別SRSVの検出報告数、シーズン別比較 (1997/1998、1998/1999、1999/2000)  
(病原微生物検出情報: 2000年2月18日現在報告数)



## 老人福祉施設におけるインフルエンザ集団発生 - 滋賀県

A老人福祉施設において、1999年12月10日頃から咳、発熱などかぜ症状を示す者があり、19日になって重症を含め多数の患者が発生したとの報告を保健所が受けた。集団発生があった施設は1フロアに15の居室をもち、各部屋に1～4人の入所者が生活していた。入所者数48名、職員数33名で、職員はすべて通勤していた。入所者の年齢分布は65歳から101歳まで、80歳代が20名と最も多かった。全ての入所者が、高血圧症、心疾患、老人性痴呆、消化器疾患、脳梗塞、高脂血症などの基礎疾患を有していた。

対象が高齢者であり日頃から体調が悪いこと、37℃以上の発熱がみられなくてもインフルエンザウイルスが分離された者があることから、何らかの呼吸器症状を呈した者すべてを「発症者」として調査を行ったところ、発症者は、入所者34名(発症率70.8%)、職員6名(同18.2%)であった。職員を含めた発症日は、12月9日から25日まで分布しているが、16日が9名で最も多くその後一旦減少し、19日および20日に6名ずつあった。34名の入所者の症状は、発熱85.3%、咳50.0%、肺炎17.6%および喘鳴20.6%などであった。肺炎を呈した患者のうち2名は亡くなった。最高体温の分布は、37.5℃以下が14名(41.2%)を占め、このうち37℃未満の者が5名(14.7%)、39.0℃以上の高熱を出した者は9名(26.4%)であった。

12月20日に咽頭拭い液および喀痰を採取し、MDCK、HeLa、RD-18s、VeroおよびFLの各培養細胞を用いて、インフルエンザウイルス、アデノウイルスおよびエンテロウイルスの分離を試みたところ、発症者27名中11名からインフルエンザウイルスAH3型(A/シドニー/05/97株様)が分離された。アデノウイルス、エンテロウイルスなどは分離されなかった。

インフルエンザウイルスの侵入ルートについて、人の動きを中心とした施設内の状況について検討したところ、介護教室さらに職員からなど複数の侵入ルートが考えられた。暖房設備は熱湯を配管で各居室に送り、暖まった空気を室内で循環させ、換気は各居室の換気扇により適宜行うというもので、各居室間の空気が混じり合うことはなかった。さらに、寝たきりの人以外は食堂で食事を取っていたが、入所者が寝たきりの人のみであった部屋からの患者発生は25日までなかった。このことから、暖房用の空気から伝播したとは考えにくく、食堂や各居室における日常の交流によって伝播したと考えられる。

保健所の指導にもとづき、施設では加湿器の設置、外来者・面会者の制限、看護婦室・寮母室および1階ロビーにうがいができる場所の設置、有症者と無症状者を分けるための部屋替え、有症者に対する各部屋での食事の提供、職員のマスク着用などを実施した。

なお、インフルエンザの予防接種は、集団発生以前には実施されていなかった。

滋賀県立衛生環境センター

横田陽子、大内好美、吉田智子、辻元宏

滋賀県八日市保健所

寺村美春、廣島育子、大佛正隆

(病原微生物検出情報3月号-IASR vol.21 No.3, 2000-掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

## 群馬県における1999/2000シーズンのインフルエンザの 動向(横紋筋融解症の疑いの1例を含む)(2月9日現在)

本県の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ患者数は1999(平成11)年51週から増加し始めたことから当研究所では本疾患に対するウイルス検査体制を強化した。患者はその後急増し、2000年2月上旬(第5週)には本疾患患者の報告は40.97人/定点となっている。今シーズンのウイルス分離状況(中間報告)を以下に報告する。

ウイルス分離はMDCK細胞を用い、同定は定法に従った。定点等から得られた146件(検査中を含む)の検査を行ったところ、A(H1N1)型が26株、A(H3N2)型が19株が分離されている。A(H1N1)型は主に若年層(1～9歳)から、A(H3N2)型は4歳以下を中心とした年齢層から分離されている。ウイルス分離された患者の初診時の主な症状は、発熱(38以上)、上気道炎、筋肉痛、関節痛等であったが、下気道炎、けいれん、筋肉麻痺等を併発している患者もみられた。

上記症例中、特筆すべき症状を示した例を以下に述べる。患者は72歳(男)で、発熱、筋肉痛、脱水を伴い入院となった。入院時臨床検査データは、WBC12,400/μL、CRP15.8mg/dl、GOT376IU/L、GPT153IU/L、LDH1426IU/L、CPK17,550IU/L、BUN121mg/dl、クレアチニン1.7mg/dl、尿中ミオグロビン3000ng/ml以上であった。筋酵素の著明な逸脱と筋肉麻痺などの臨床症状から横紋筋融解症が疑われた。幸いなことに、患者の経過は順調で10日後に検査所見も改善された。この患者の咽頭ぬぐい液からA(H3N2)型が分離された。このように、インフルエンザA型はまれではあるが、成人に横紋筋融解症などの筋肉系の合併症を引き起こすことがある(JAMA,1980;243, 461-462)。現在、他にこのような症状を示した数名の患者のウイルス学的検索を行っている。

また、学校等および福祉施設の集団発生事例19事例(検査中を含む)についてウイルス検査を行ったところ、9事例(幼稚園、小学校)からA(H1N1)型が分離され、2事例(中学校、福祉施設)からA(H3N2)型が分離された。平成11年度に実施した本県住民のインフルエンザワクチン株に対する感受性調査結果によれば、A(H1N1)型及びB型のHI抗体保有率(抗体価1:40以上)が全年齢層において低いため、今後のインフルエンザの動向にはさらに注意が必要であろう。

群馬県衛生環境研究所

塩原正枝 木村博一 中村雄策 赤見正行 井上ますお 大月邦夫

前橋赤十字病院内科 中村保子

同 小児科 深澤俊之

(病原微生物検出情報3月号-IASR vol.21 No.3, 2000-掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



## 海外感染症情報

### CDR Vol.10 No.6, 2000

爬虫類ペットと関係した致死的な新生児サルモネラ髄膜炎

生後3週の新児がサルモネラ髄膜炎によって死亡した。サルモネラは新生児と母親から分離され、*Salmonella* Rubislawと確認された。家族はウォータードラゴントカゲとチンチラをペットとして飼っており、トカゲの飲み水と木製の飼育ケースからサルモネラが分離された。

これまでにイングランドとウェールズでは*S. Rubislaw*感染の報告は1998年に1例、1999年に6例のみの報告がある。1999年12月にはノースイーストで生後6ヶ月の乳児のオレンジトカゲによる*S. Rubislaw*感染が報告されている。

近年、爬虫類などの小動物をペットとし飼育する人々が増加し、小さな子供や老人や免疫力の低下した人々に対し感染の危険性が増している。

### WHO/WER Vol.75 No.6, 45, 2000

天然痘研究諮問委員会報告 1999年12月

1999年5月のWHO総会で、現在、アメリカ合衆国とロシア共和国の2国に保存されている天然痘ウイルスを、研究目的のため2002年まで保存することが決議された。この決議に伴い、天然痘研究諮問委員会が組織され、1999年12月に、2002年までにどのような研究が必要、また可能であるかが討議された。その結果、以下の研究項目の優先順位が高いと確認された。

- 1)天然痘ウイルスの遺伝子解析
- 2)天然痘の診断方法の開発と検定
- 3)天然痘の治療薬の検定
- 4)天然痘ウイルスによるモノクローナル抗体の作製
- 5)天然痘ワクチンの開発と検定
- 6)天然痘の動物実験モデル

委員会は、これらの研究の実施は2002年を過ぎてはならず、現存する天然痘ウイルスは2002年に廃棄されるべきであると勧告している。

### WHO/EMC 2月16日

中央アフリカ共和国の髄膜炎菌性髄膜炎患者の増加

1999年10月から2000年1月に発生した髄膜炎菌性髄膜炎患者数増加の報告を受けた。患者総数86名、死者14名が報告された。流行地方は以下のとおり: Vakaga患者25名(2名死亡); Bamingui-Bangoran患者19名(5名死亡); Haute Katto患者7名(5名死亡); Ouham Pend患者35名(2名死亡)。流行地域では予防接種キャンペーンが実施された。WHOアフリカ地域事務局は嚴重に状況の監視を行っている。

### Health Canada 2月17日

マラリア ドミニカ共和国(続報)

ドミニカ共和国保健当局はLa Altagracia州のリゾート地におけるマラリアの流行が終息したことを公表した。2000年1月から2月4日まで新たな患者の報告はない。1999年8月からこの流行が始まり、La Altagracia州でマラリア患者総数359名が確認された。患者の大部分(77%)は、出稼ぎに来た建設労働者であり、17%は当地域の住人であった。感染の危険性が低くなり、ドミニカ政府はLa Altagraciaリゾート地域への渡航者に抗マラリア薬の予防内服を推奨することを中止した。





## 感染症の話

### 狂犬病

狂犬病は狂犬病ウイルスを保有するイヌ、ネコおよびコウモリを含む野生動物に咬まれたり、引っ掻かれたりして発症する人獣共通感染症である。

#### 疫学

世界保健機関( WHO )によると、全世界で毎年3万5000 ~ 5万人が狂犬病によって死亡しており、アジア、アフリカ等では狂犬病の犬から感染した患者が多く発生している( 図1 )。しかしながら、日本での狂犬病は1970年にネパールで感染し死亡した症例以外には、1957年以降発生していない。その最大の要因はイヌへのワクチン接種および検疫制度によると同時に、わが国が島国であるということである。世界のなかでは狂犬病が根絶された地域はオーストラリア、イギリス、台湾、ハワイ等と島国に限られていた。しかしながらイギリスでは1996年にコウモリの狂犬病が見つかり、またユーロトンネルの開通でフランス等からの狂犬病の侵入がおそれられている。またオーストラリアのコウモリ( fruit bat )から狂犬病に類似したAustralian bat virusが分離され、そのウイルスによる患者が1996年に報告された。こうしたウイルスによる狂犬病様疾患またコウモリによる狂犬病があらたに注目されてきている。

1997年における狂犬病( WHO報告 )

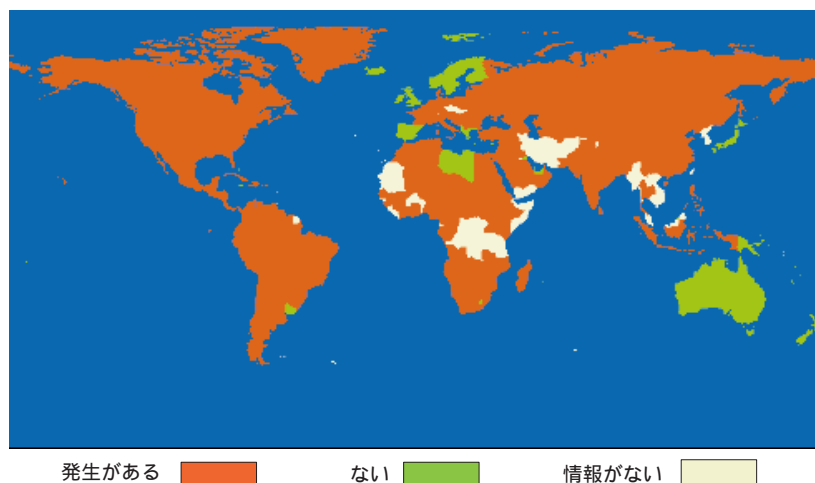


図1. 世界の狂犬病の分布

#### 病原体

狂犬病ウイルスおよびその関連ウイルスはリッサウイルスと称され、genotype 1( 狂犬病ウイルス ), genotype 2( Lagos bat virus ), genotype 3( Mokola virus ), genotype 4( Duvenhage virus ), genotype 5( European bat virus, type 1 ), genotype 6( European bat virus type 2 )のタイプに分けられている。genotype 1がいままで知られていた狂犬病ウイルスであるが、上述の如く、Australian bat virusが新しい genotype として登場している。リッサウイルスはRNAウイルスであり、いずれも特徴ある砲弾型の形態をとる。

### 臨床症状

感染から発症までの潜伏期間は咬まれた部位等によってさまざまであるが、一般的には1～2カ月である。発熱、頭痛、倦怠感、筋痛、疲労感、食欲不振、悪心嘔吐、咽頭痛、空咳等の風邪様症状ではじまる。咬傷部位の疼痛やその周辺の知覚異常、筋の攣縮を伴う。脳炎症状は運動過多、興奮、不安狂躁から始まり、錯乱、幻覚、攻撃性、恐水発作等の筋攣縮を呈し、最終的には昏睡状態から呼吸停止で死にいたる。狂犬病は一度発症すれば、死亡率はほぼ100%である。

ヒトからヒトへの狂犬病の感染例は、狂犬病患者からの角膜移植を除いて報告されていないが、狂犬病の疑わしい患者がでた場合、患者に直接接触する医者、看護婦等の医療従事者は接触予防に十分注意を払い、狂犬病と確認された場合には、直ちに暴露後免疫を行うべきである。

### 病原診断

狂犬病の診断法は、生前診断として、1)角膜塗沫標本、頸部の皮膚、気管吸引材料および唾液腺を検体とした蛍光抗体(FA)法によるウイルス抗原検索 2)唾液、脳脊髄液を検体としたRT-PCR法によるウイルス遺伝子の検索 3)Fluorescent Focus Inhibition Test(FITC)、ELISAによる抗体価の測定がある。しかしながら治療のためのワクチン投与などにより血清中の抗体価の上昇があり、診断価値は低い。脳脊髄液中の高い抗体価は診断の目安となる。いずれも感染初期の生前診断は不可能であり、接触した動物の脳材料の検査が重要である。死後の確定診断として、脳の部検によって得られた脳組織および脳乳剤を用いる。1)蛍光抗体(FA)法によるウイルス抗原検索 2)RT-PCR法によるウイルス遺伝子の検索 3)乳のみマウス、マウス神経芽腫細胞への接種試験によるウイルス分離がある。病原体の取り扱いはP3レベルで行い、検査材料を取り扱う者は、あらかじめワクチンを接種しておくなどの十分な配慮が必要である。

### 治療・予防

海外、特に東南アジアで狂犬病が疑われたイヌ、ネコおよび野生動物にかまれたり、ひっかかれたりした場合、まず傷口を石鹼と水でよく洗い流し、狂犬病ワクチンと抗狂犬病ガンマグロブリンを投与する。狂犬病は一旦発症すれば特異的治療法はない。このためできるだけ早期にワクチンと抗狂犬病ガンマグロブリンを投与する必要がある(日本では抗狂犬病ガンマグロブリンは入手困難である)。ワクチンとしてはヤギ脳を不活化したセンプル型のワクチン、乳のみマウス脳を不活化したフェンザリダ型のワクチン、組織培養ワクチンとして、フランスのヒト二倍体ワクチン、VEROワクチン、ドイツと日本で製造されているニワトリ胚細胞のワクチンがある。動物脳由来ワクチンは副反応が組織培養のワクチンより強いので避けたほうがよい。またガンマグロブリンはヒトとウマの2種類の製剤があるが、ウマの製剤によるアレルギーが多く報告されているので注意する必要がある。WHOおよびわが国では暴露後免疫(治療用としてのワクチン)は接種開始日を0として、3、7、14、30、90日の6回を推奨している。前述のように日本では狂犬病が発生していないので、旅行等で海外にでかけてもその危険性を認識していない人が多く、イヌに不用意に近づきかまれる例があとを絶たない。むやみにイヌや野生動物に接触しないこと、現地の状況や活動範囲などから危険度を考慮して、必要があればワクチンをあらかじめ接種するよう勧められている。



図2. 狂犬病の犬  
“The Natural History of Rabies (Academic Press)”より転載

### 感染症新法の中での狂犬病の取扱い

狂犬病は、第4類の全数届出疾患に定められており、診断した医師は診断から7日以内に保健所に届け出る必要がある。報告のための基準は、以下の通りとなっている。

#### 《 報告のための基準 》

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

##### ・病原体の検出

例：唾液からのウイルスの分離

脳のプロ検によって得られた脳組織および脳乳剤を用いた、乳のみマウス、マウス神経芽腫細胞への接種試験によるウイルス分離など

##### ・病原体の抗原の検出

例：角膜塗沫標本、頸部の皮膚、気管吸引材料および唾液腺の生検材料からの直接蛍光抗体( FA )法などによる検出

死後脳のプロ検によって得られた脳組織および脳乳剤からの蛍光抗体( FA )法によるウイルス抗原の検出など

##### ・病原体の遺伝子の検出

例：唾液、髄液などからのRT-PCR法

脳のプロ検によって得られた脳組織および脳乳剤からのRT-PCR法など

##### ・病原体に対する抗体の検出

例：Fluorescent Focus Inhibition Test、ELISA法など

( 注 ) 血中抗体価は治療のためのガンマグロブリン、ワクチン投与により上昇するため診断価値が少ない。髄液中の高い抗体価は診断の目安となる。

( 国立感染症研究所 ウイルス第一部 神経系ウイルス室 新井陽子 )



## 読者のコーナー

渋谷区 Cさんより

感染症新法にて、4類感染症に定点把握対象疾患というのがありますが、この定点医療機関というのは、どのように決定されているのでしょうか。

### 定点把握疾患における定点医療機関について

感染症発生動向調査における定点把握疾患は、ご協力いただいている医療機関からの御報告をもとに、疾患の発生状況を把握し、あるいは日本全体での罹患率の推計が行われております。

定点数は、新法施行前に研究班において種々の検討が行われ、標準誤差率5%以下で全国の罹患率が推定できるように、保健所管轄地域での定点数が設定されております。結果的には、保健所毎の管轄地域の人口に基づいて、日本全国で、小児科定点(約3,000)、インフルエンザ定点(小児科定点+内科約2,000で、合計約5,000)、性感染症定点(約900)、眼科定点(約600)、基幹病院定点(約500)の定点数が決定されております。定点医療機関は、地域の医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に選定します。具体的には、まず対象感染症に関連する科を標榜する医療機関のなかから可能な限り無作為抽出をおこない、医療機関に同意を得て、指定するという手順を踏むこととなっております。もし同意が得られなかった場合には、再び無作為抽出を行って同意を得ることを繰り返し、最終的に設定された定点数の医療機関が選定されます。小児科定点からは、麻疹、水痘など小児によく見られる感染症、インフルエンザ定点からはインフルエンザ、性感染症定点からは淋病、性器クラミジアなど性感染症、眼科定点からは急性出血性結膜炎など眼感染症、基幹病院定点からは、急性脳炎、細菌性髄膜炎など重症の感染症とメチシリン耐性ブドウ球菌感染症など薬剤耐性菌感染症の御報告を頂いております。

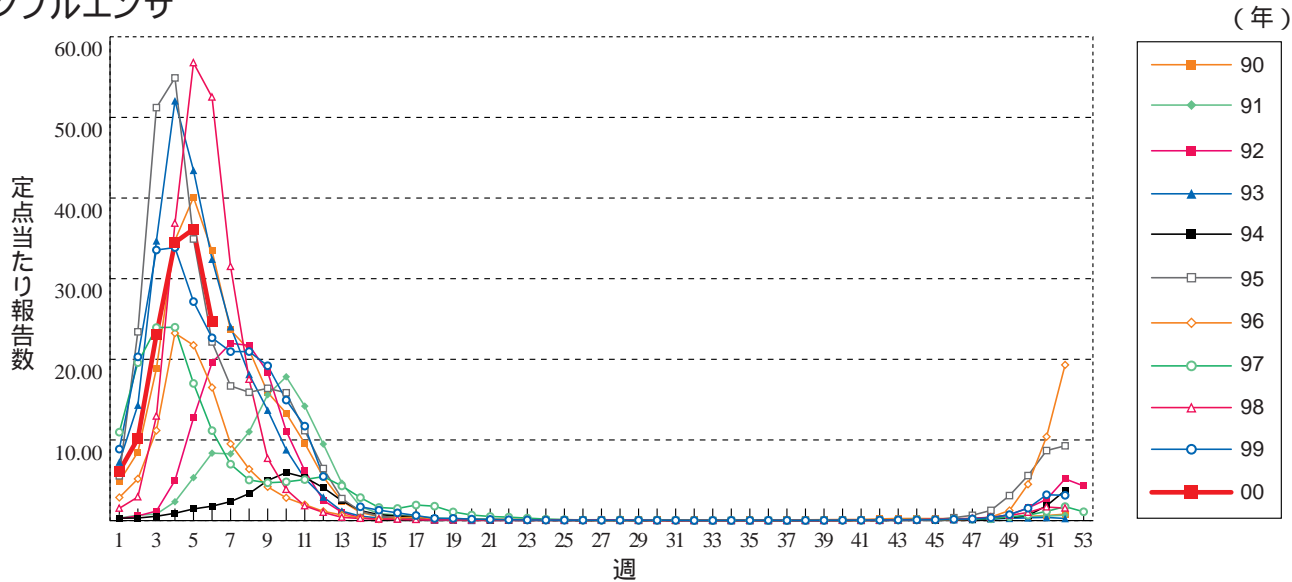
\*\*\*\*\*

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

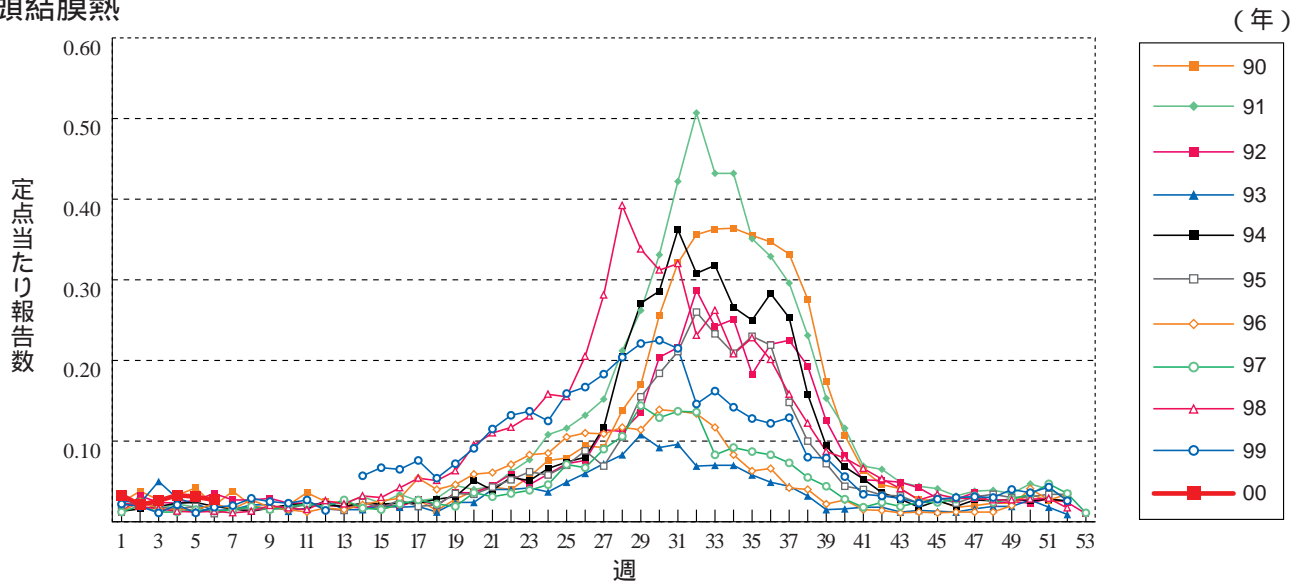
[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

**グラフ総覧( 6週 )**

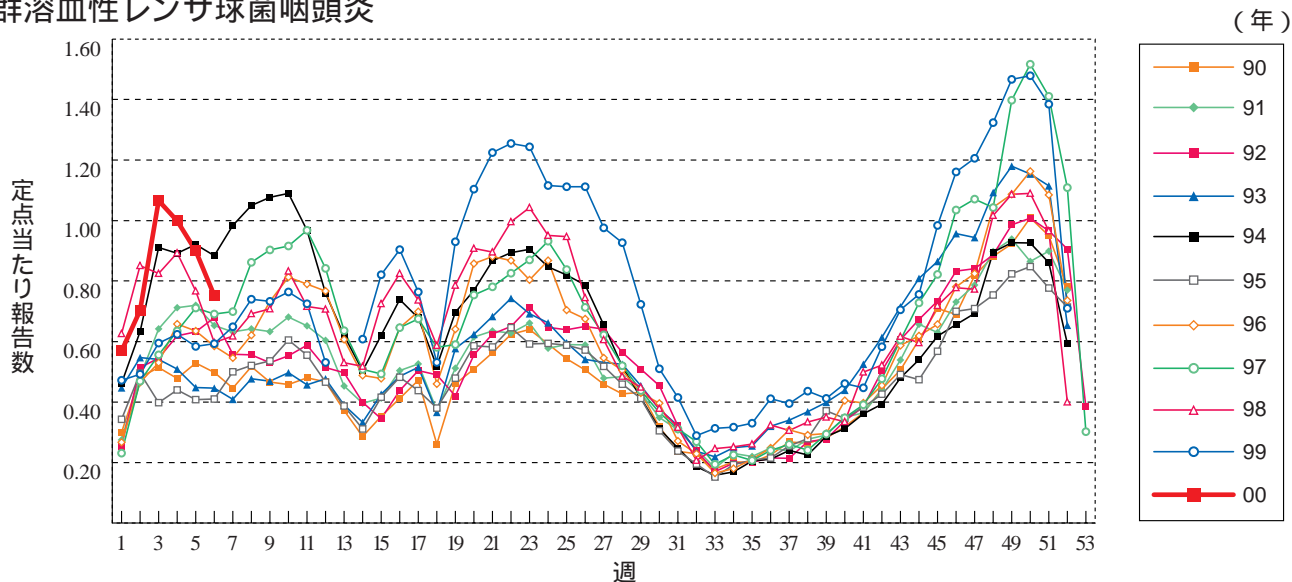
**インフルエンザ**



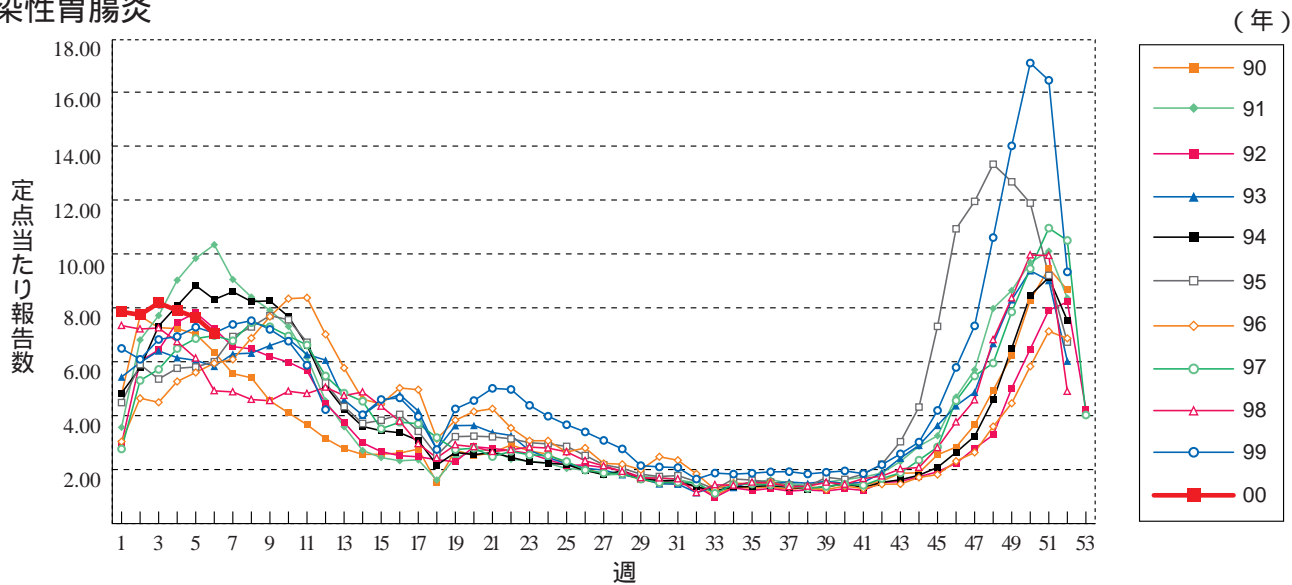
**咽頭結膜熱**



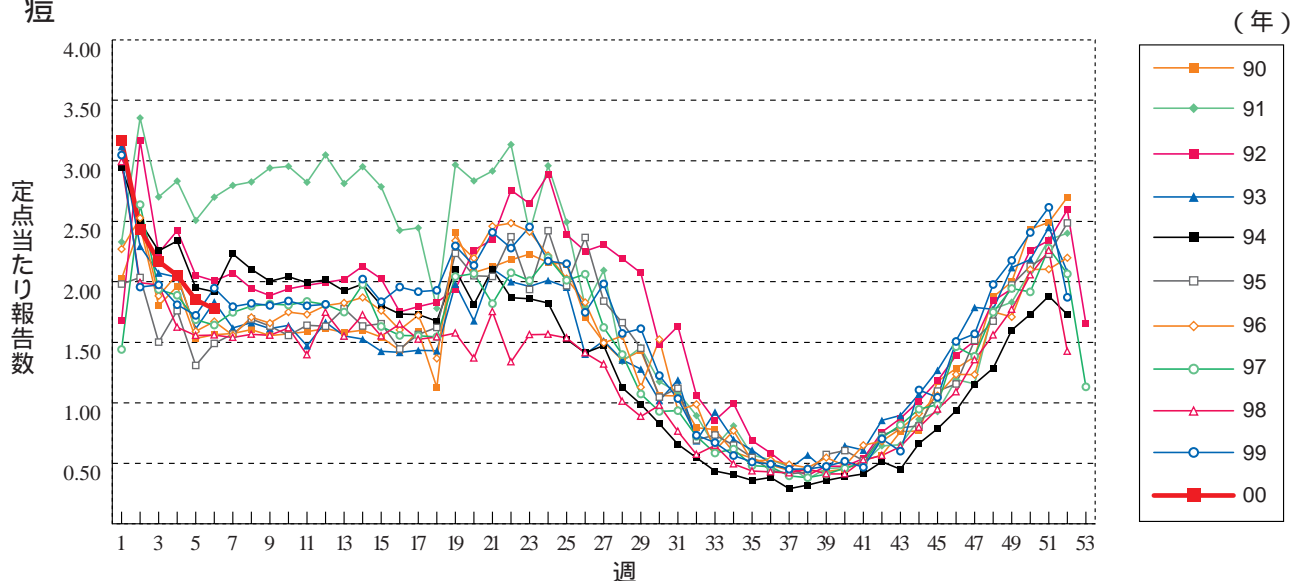
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



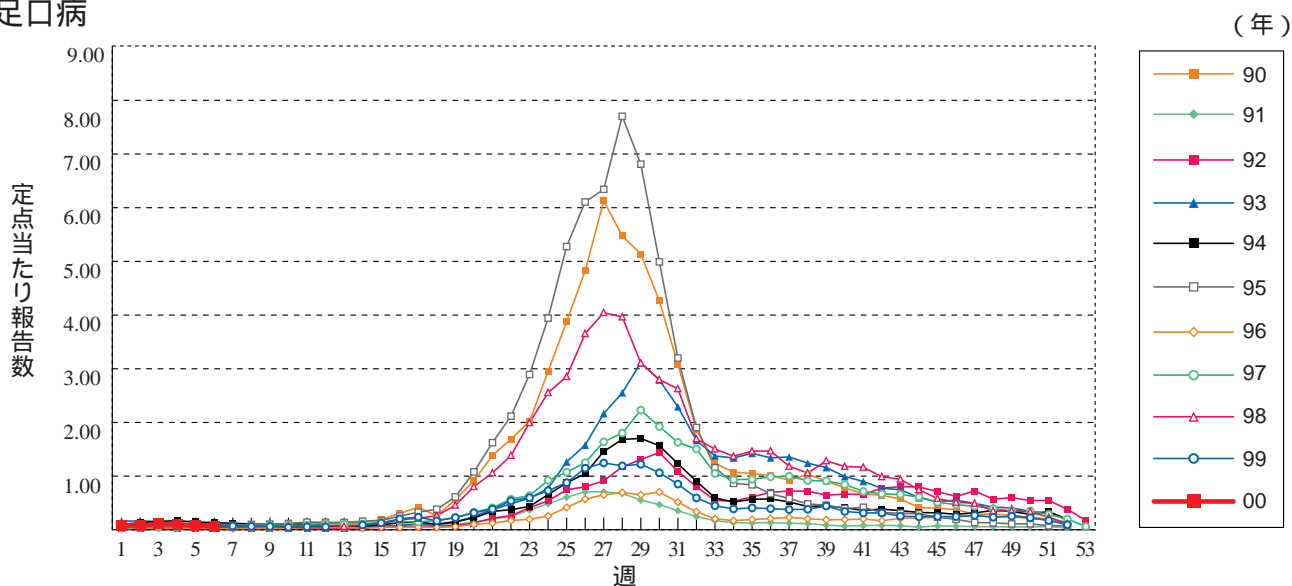
感染性胃腸炎



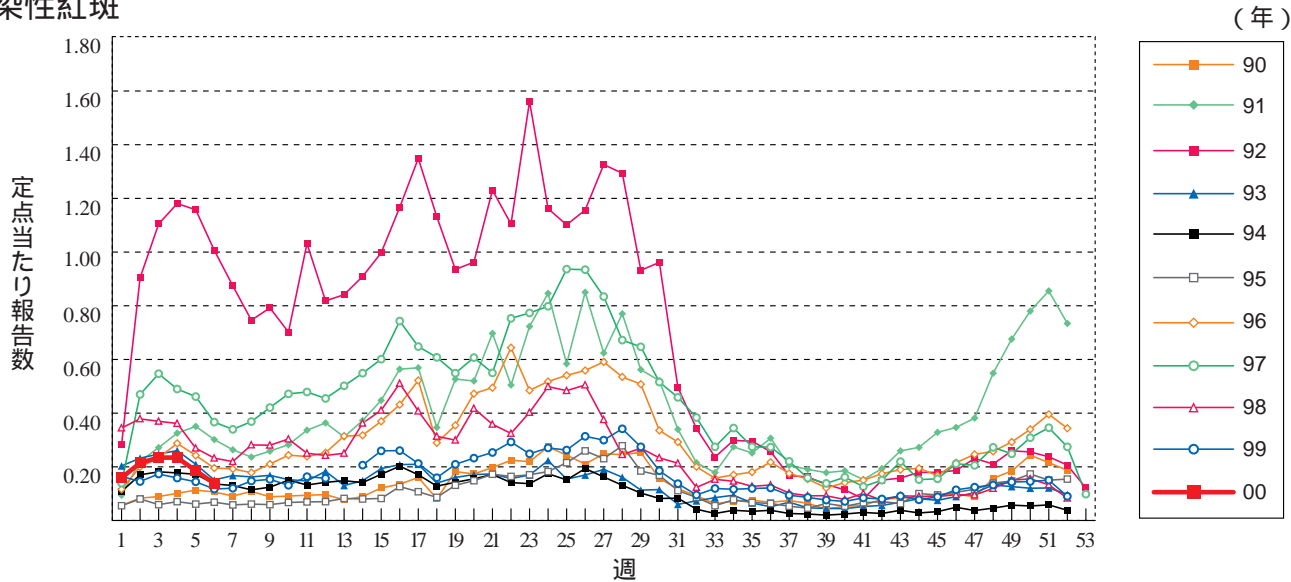
水痘



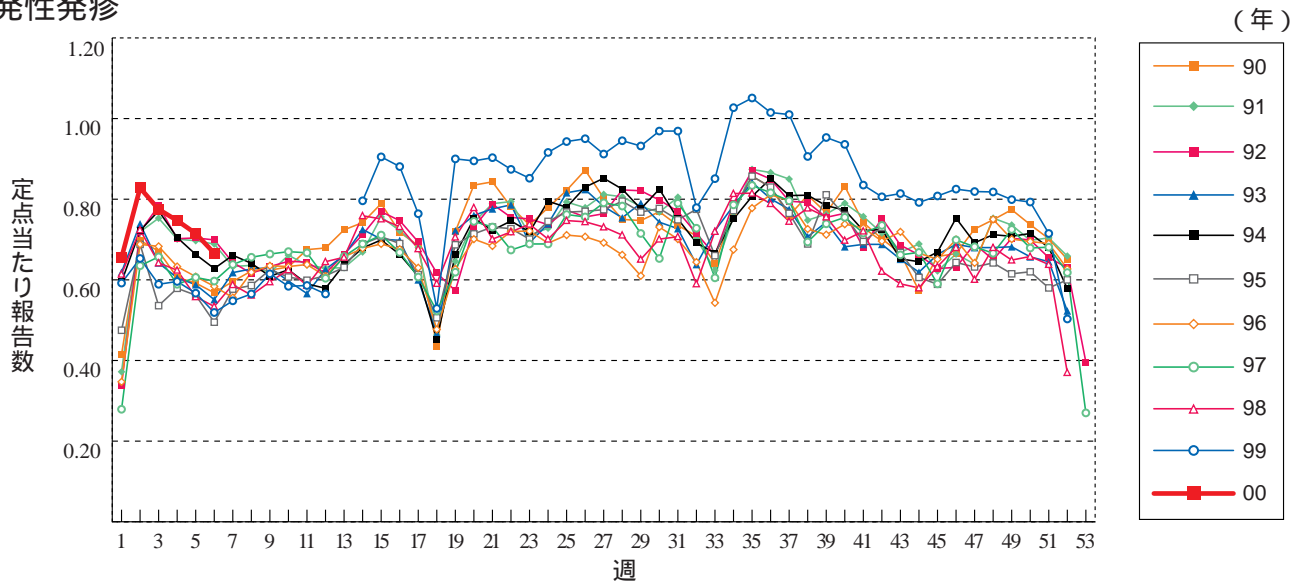
手足口病



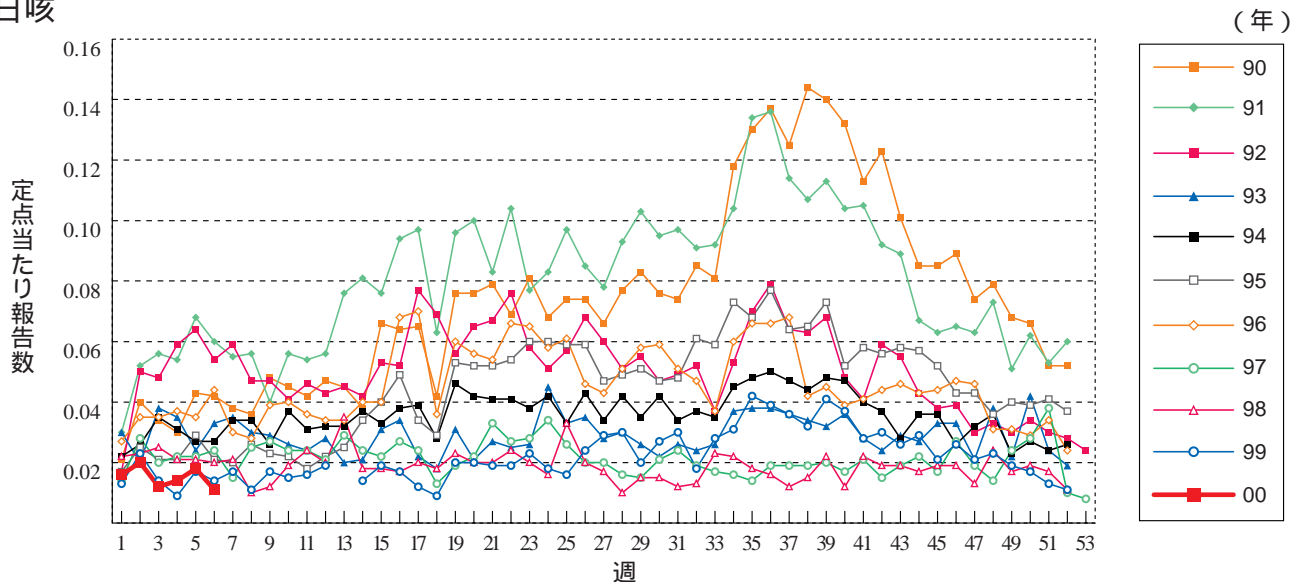
伝染性紅斑



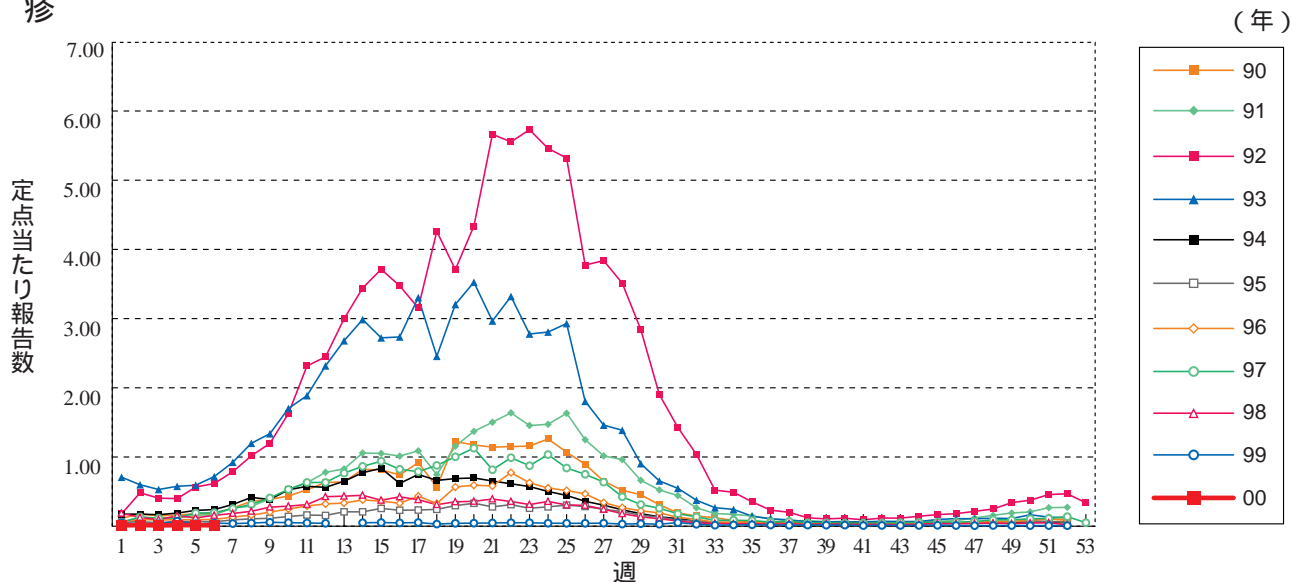
突発性発疹



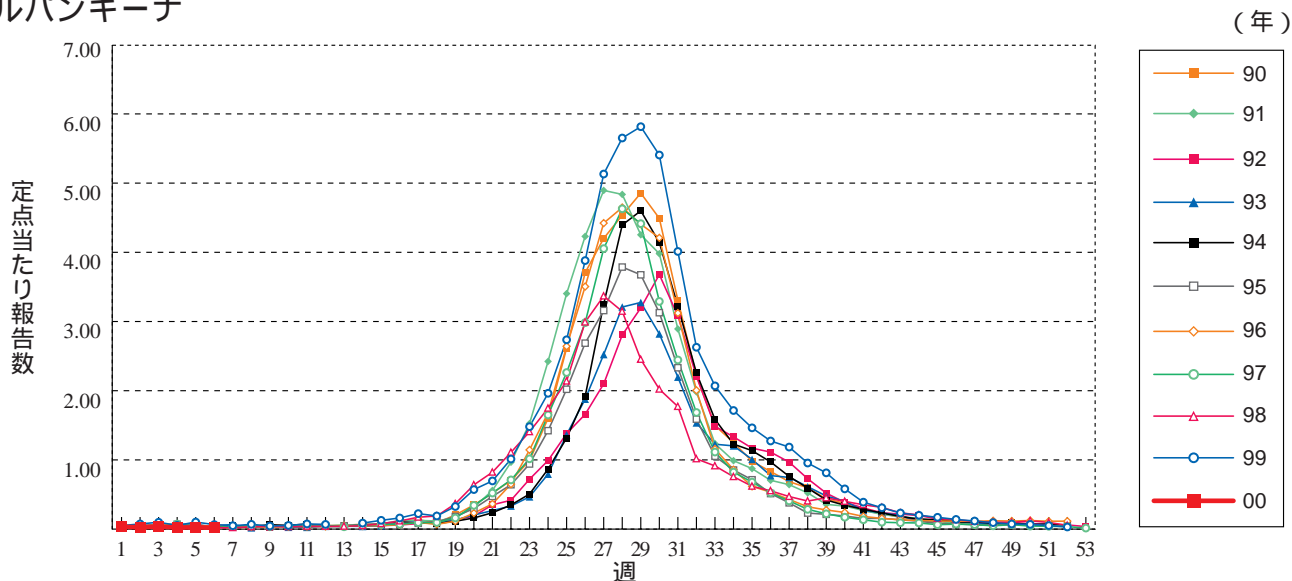
百日咳



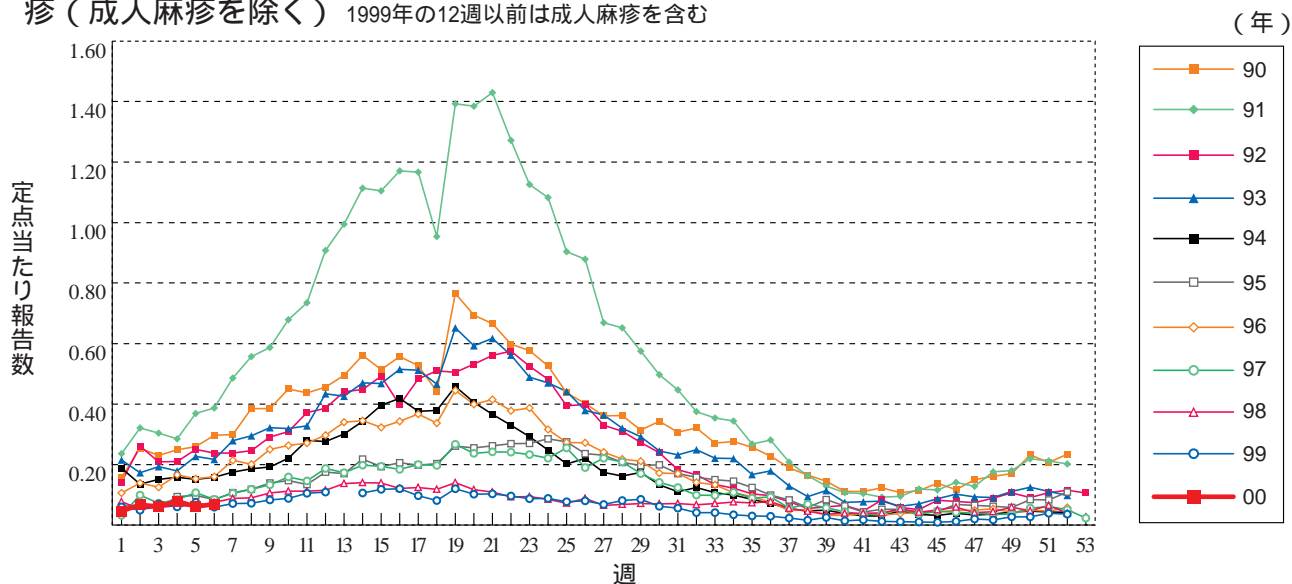
風 疹



ヘルパンギーナ

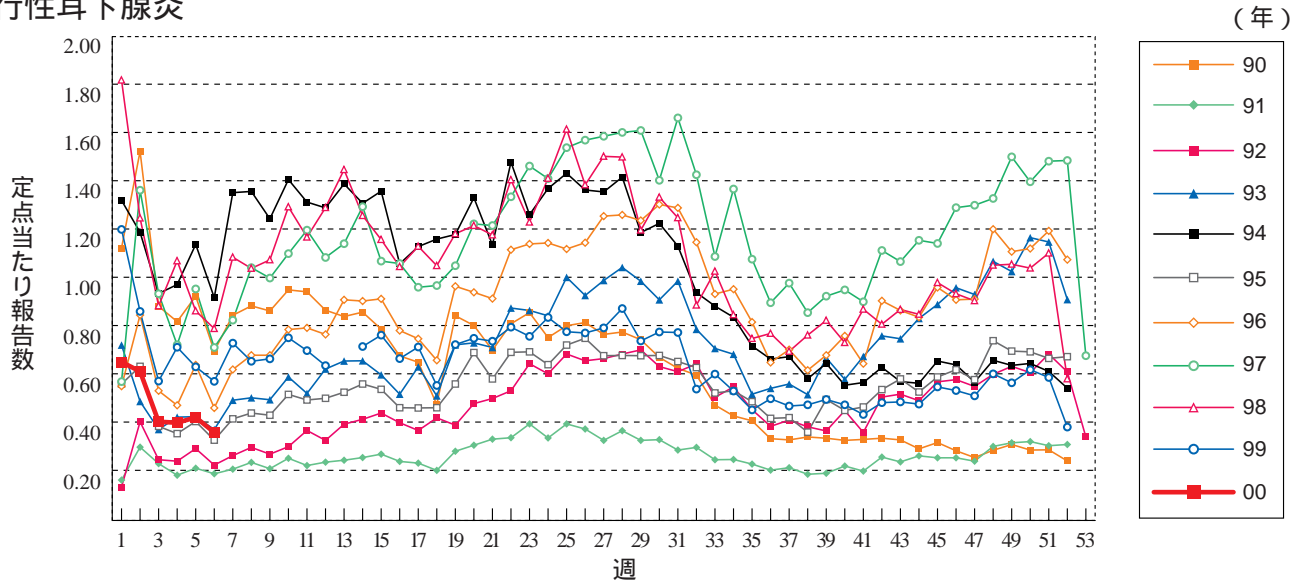


麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む

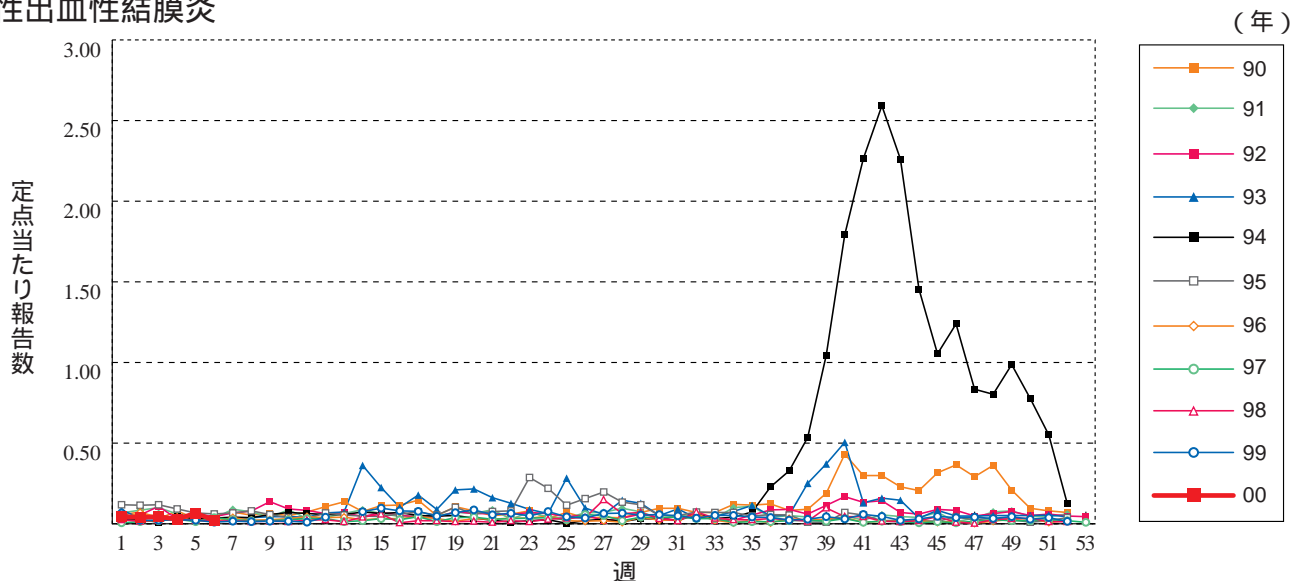




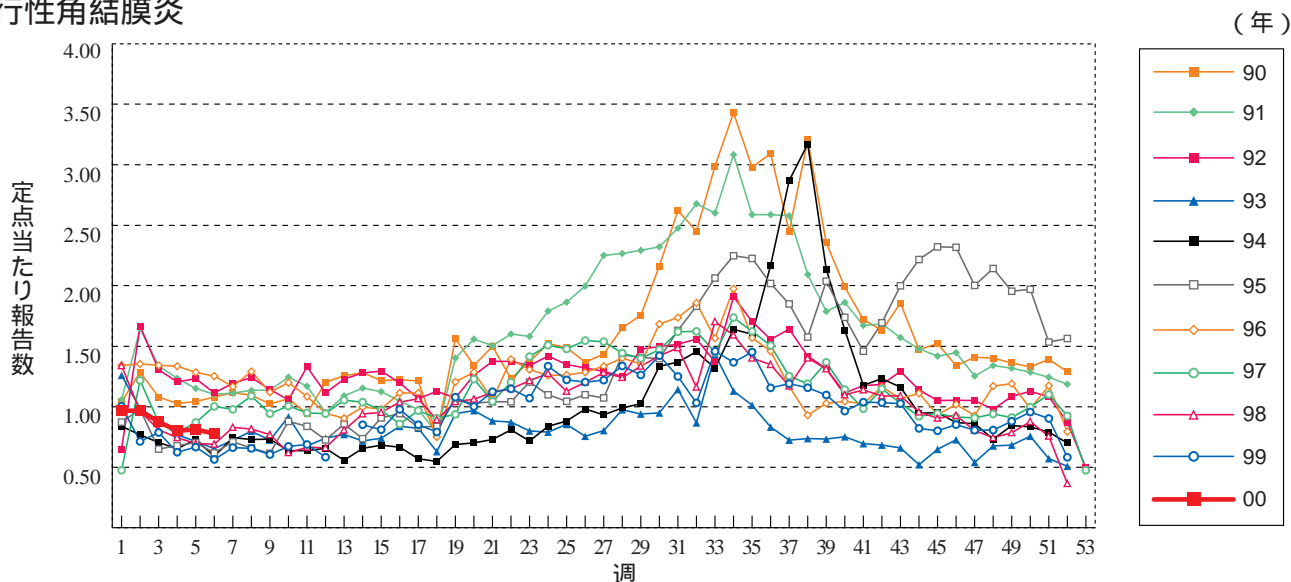
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

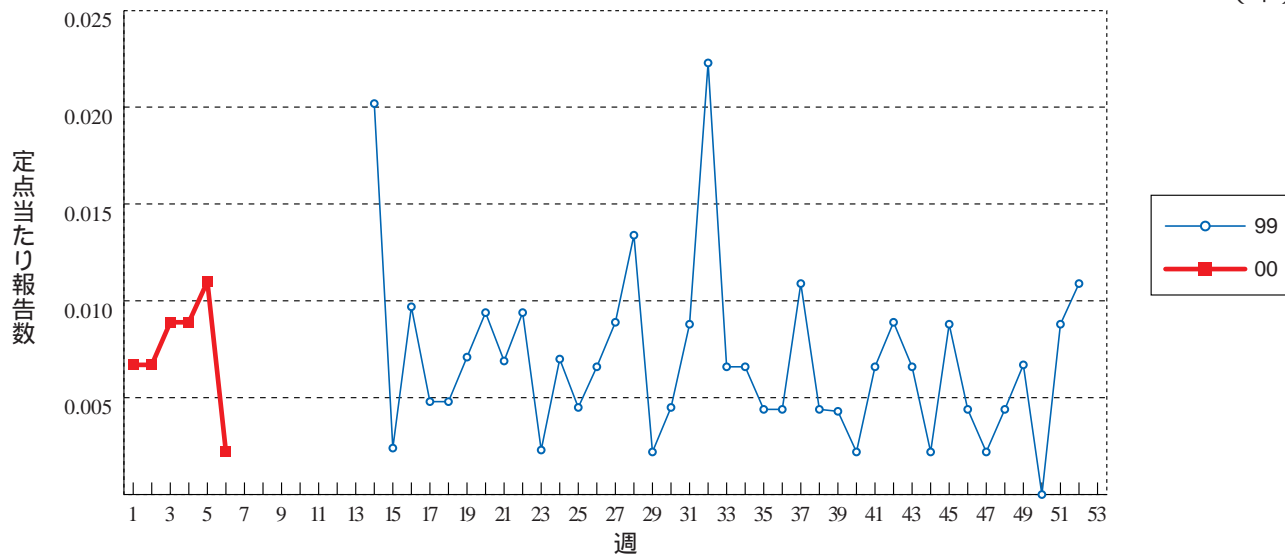


流行性角結膜炎



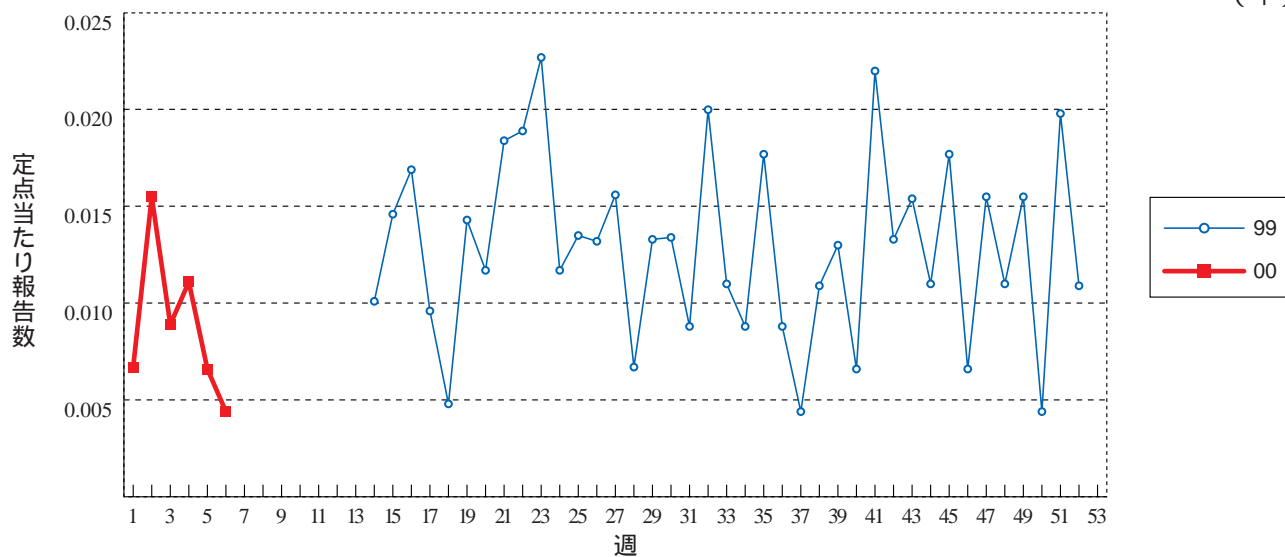
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



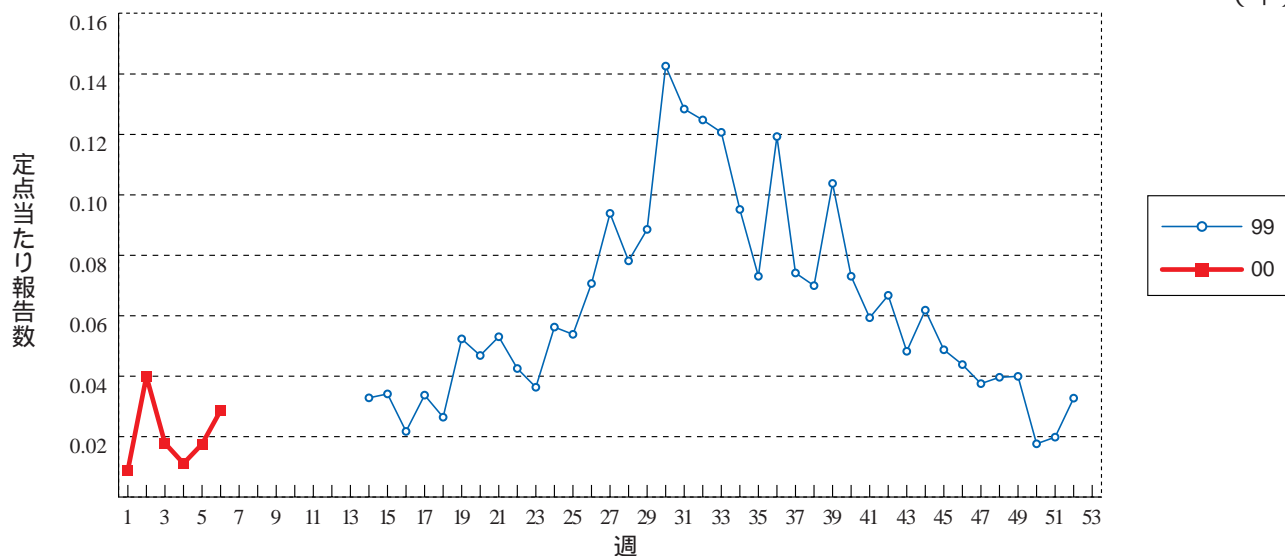
細菌性髄膜炎

(年)



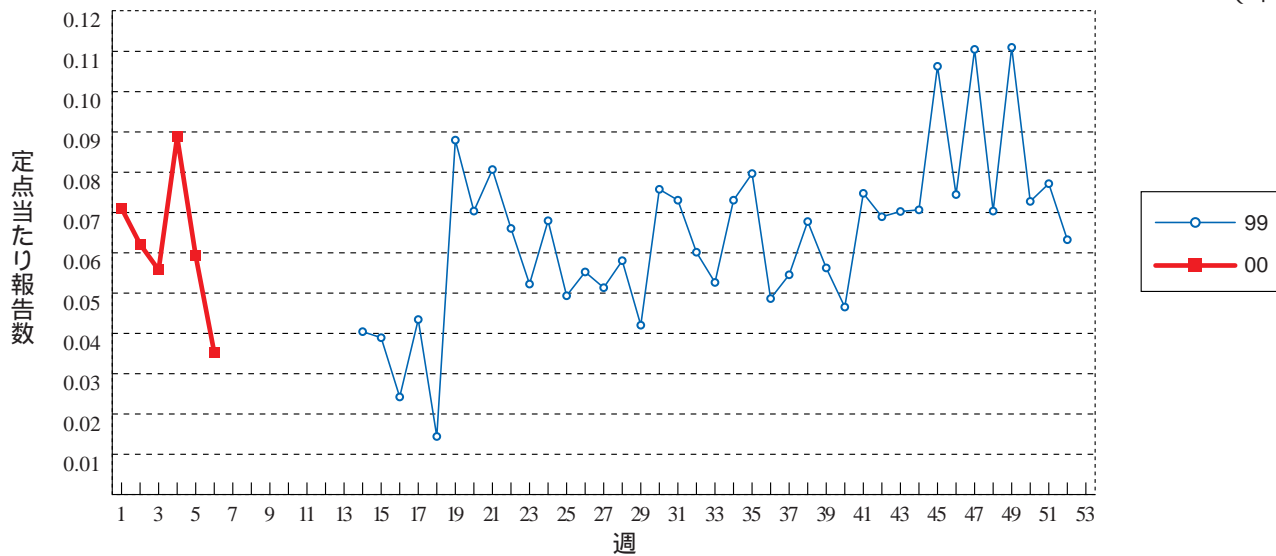
無菌性髄膜炎

(年)



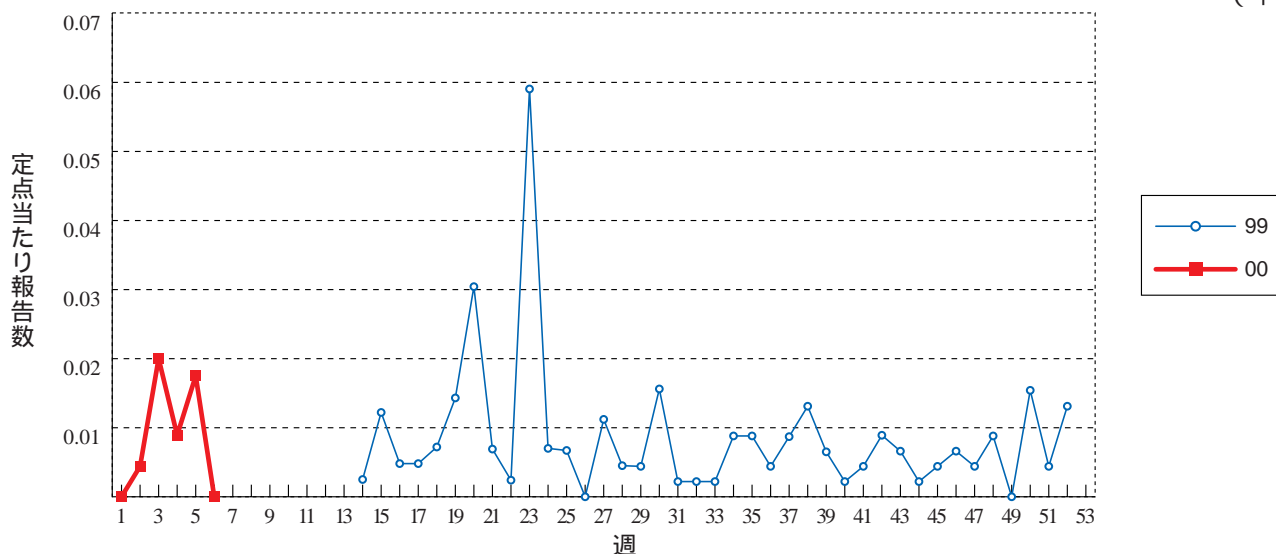
マイコプラズマ肺炎

(年)



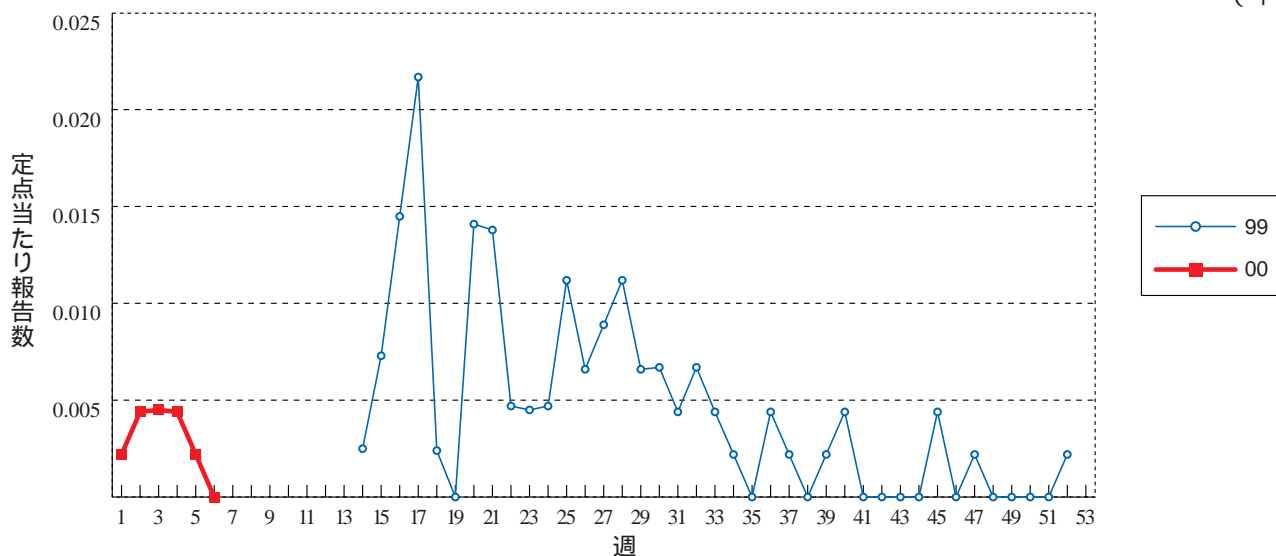
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 6週のデータ

注) 表中の報告数は2月18日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年6週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7	63	2	3	-	1		
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	1	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14	2	2	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年6週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	21	81	1	29	-	-	-	-	-	2	-	-	8	127
北海道	-	-	-	-	2	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	1	6	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
神奈川県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
愛知県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大阪府	-	-	-	-	1	5	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
兵庫県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12
奈良県	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	18
香川県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	3	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	5	6	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
鹿児島県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年6週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	11	-	3	4	49	-	-	-	5	-	-	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	5	-	-	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	22	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	3	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年6週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	1	42	-	-	-	-	-	-	-	-	4	69
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
兵庫県	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
徳島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年6週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	1	11
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1



第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年6週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	112576	24.63	80	0.03	2205	0.75	20725	7.07	5207	1.78	186	0.06	405	0.14	1954	0.67	32	0.01
北海道	7495	32.87	13	0.09	128	0.89	471	3.27	173	1.20	7	0.05	43	0.30	92	0.64	1	0.01
青森県	2343	37.19	-	-	22	0.54	159	3.88	51	1.24	2	0.05	14	0.34	24	0.59	-	-
岩手県	2801	45.18	-	-	21	0.55	172	4.53	59	1.55	-	-	4	0.11	27	0.71	1	0.03
宮城県	2092	21.57	-	-	79	1.34	1199	20.32	136	2.31	5	0.08	21	0.36	50	0.85	1	0.02
秋田県	2411	43.84	-	-	75	2.14	291	8.31	17	0.49	-	-	5	0.14	23	0.66	-	-
山形県	1446	30.13	-	-	47	1.57	268	8.93	82	2.73	-	-	1	0.03	25	0.83	-	-
福島県	2081	19.27	-	-	25	0.52	477	9.94	113	2.35	1	0.02	15	0.31	32	0.67	2	0.04
茨城県	1733	15.34	1	0.01	60	0.83	335	4.65	55	0.76	2	0.03	2	0.03	33	0.46	-	-
栃木県	2000	29.41	1	0.02	37	0.82	178	3.96	72	1.60	-	-	3	0.07	24	0.53	-	-
群馬県	2985	29.85	-	-	64	1.03	323	5.21	86	1.39	2	0.03	10	0.16	34	0.55	-	-
埼玉県	5266	29.58	2	0.02	141	1.26	947	8.46	176	1.57	1	0.01	5	0.04	87	0.78	1	0.01
千葉県	4804	22.88	4	0.03	133	0.99	939	7.01	255	1.90	4	0.03	24	0.18	66	0.49	3	0.02
東京都	2543	14.29	7	0.05	44	0.31	796	5.61	143	1.01	1	0.01	20	0.14	54	0.38	-	-
神奈川県	6297	18.85	7	0.03	105	0.51	1336	6.49	322	1.56	19	0.09	41	0.20	182	0.88	1	0.00
新潟県	3707	37.44	1	0.02	96	1.60	579	9.65	149	2.48	1	0.02	32	0.53	41	0.68	2	0.03
富山県	2518	52.46	-	-	32	1.10	144	4.97	62	2.14	-	-	-	-	21	0.72	-	-
石川県	1661	34.60	-	-	22	0.76	264	9.10	69	2.38	3	0.10	2	0.07	15	0.52	-	-
福井県	911	28.47	1	0.05	26	1.18	252	11.45	79	3.59	-	-	1	0.05	18	0.82	2	0.09
山梨県	1185	29.63	-	-	7	0.29	93	3.88	15	0.63	1	0.04	-	-	10	0.42	-	-
長野県	2309	28.51	-	-	39	0.75	413	7.94	80	1.54	2	0.04	26	0.50	51	0.98	-	-
岐阜県	1137	17.77	-	-	47	1.15	147	3.59	47	1.15	-	-	1	0.02	15	0.37	-	-
静岡県	3642	26.58	1	0.01	59	0.69	873	10.15	274	3.19	1	0.01	7	0.08	64	0.74	3	0.03
愛知県	3702	19.18	1	0.01	106	0.58	1010	5.55	288	1.58	3	0.02	26	0.14	119	0.65	4	0.02
三重県	2056	28.16	4	0.09	28	0.62	412	9.16	96	2.13	2	0.04	4	0.09	48	1.07	-	-
滋賀県	630	12.35	-	-	21	0.70	73	2.43	27	0.90	-	-	2	0.07	11	0.37	-	-
京都府	1479	11.74	-	-	29	0.38	474	6.24	81	1.07	-	-	1	0.01	40	0.53	1	0.01
大阪府	2146	7.89	3	0.02	76	0.40	900	4.76	210	1.11	15	0.08	4	0.02	101	0.53	3	0.02
兵庫県	3256	16.53	5	0.04	55	0.43	915	7.20	261	2.06	11	0.09	14	0.11	119	0.94	1	0.01
奈良県	694	12.62	2	0.06	11	0.31	258	7.37	39	1.11	3	0.09	4	0.11	20	0.57	1	0.03
和歌山県	782	15.33	1	0.03	26	0.81	205	6.41	52	1.63	-	-	2	0.06	7	0.22	-	-
鳥取県	727	25.07	5	0.26	63	3.32	272	14.32	35	1.84	-	-	2	0.11	16	0.84	-	-
島根県	841	22.13	1	0.04	15	0.65	135	5.87	40	1.74	-	-	1	0.04	8	0.35	-	-
岡山県	1534	18.26	3	0.06	19	0.35	347	6.43	89	1.65	1	0.02	2	0.04	24	0.44	1	0.02
広島県	2574	21.63	4	0.05	35	0.47	510	6.80	95	1.27	5	0.07	4	0.05	35	0.47	3	0.04
山口県	2440	34.86	1	0.02	37	0.76	549	11.20	54	1.10	-	-	2	0.04	40	0.82	-	-
徳島県	957	25.18	2	0.09	11	0.48	189	8.22	47	2.04	-	-	-	-	21	0.91	-	-
香川県	900	17.65	-	-	6	0.19	302	9.44	100	3.13	2	0.06	-	-	23	0.72	-	-
愛媛県	2717	42.45	4	0.10	25	0.64	351	9.00	90	2.31	2	0.05	9	0.23	36	0.92	-	-
高知県	1388	28.33	-	-	29	0.94	151	4.87	41	1.32	-	-	-	-	21	0.68	-	-
福岡県	5008	32.10	-	-	70	0.90	908	11.64	182	2.33	18	0.23	13	0.17	59	0.76	-	-
佐賀県	1262	32.36	-	-	28	1.22	217	9.43	70	3.04	4	0.17	1	0.04	27	1.17	-	-
長崎県	2512	35.89	-	-	15	0.34	240	5.45	59	1.34	3	0.07	4	0.09	18	0.41	-	-
熊本県	2579	31.84	3	0.06	15	0.31	330	6.73	135	2.76	28	0.57	8	0.16	56	1.14	-	-
大分県	2756	47.52	-	-	65	1.81	362	10.06	88	2.44	10	0.28	11	0.31	43	1.19	-	-
宮崎県	2415	40.25	3	0.08	52	1.41	533	14.41	162	4.38	2	0.05	10	0.27	26	0.70	-	-
鹿児島県	2752	28.37	-	-	46	0.78	408	6.92	200	3.39	12	0.20	4	0.07	43	0.73	1	0.02
沖縄県	1102	19.00	-	-	13	0.38	18	0.53	151	4.44	13	0.38	-	-	5	0.15	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年6週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	38	0.01	60	0.02	202	0.07	1067	0.36	13	0.02	480	0.78	1	0.00	2	0.00	13	0.03
北海道	-	-	-	-	2	0.01	65	0.45	-	-	14	0.48	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	3	0.07	-	-	20	0.49	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	10	0.26	9	0.24	-	-	8	0.67	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	1	0.02	4	0.07	6	0.10	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	3	0.09	-	-	13	0.37	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	8	0.27	-	-	4	0.50	-	-	-	-	-	-
福島県	2	0.04	1	0.02	3	0.06	6	0.13	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	-
茨城県	3	0.04	1	0.01	20	0.28	8	0.11	1	0.06	30	1.88	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	6	0.13	4	0.09	-	-	10	0.83	-	-	1	0.17	-	-
群馬県	-	-	1	0.02	-	-	57	0.92	-	-	11	0.79	-	-	-	-	1	0.10
埼玉県	1	0.01	3	0.03	3	0.03	50	0.45	-	-	24	0.92	-	-	1	0.11	2	0.22
千葉県	-	-	-	-	28	0.21	50	0.37	-	-	29	0.83	-	-	-	-	-	-
東京都	10	0.07	3	0.02	4	0.03	50	0.35	-	-	23	1.64	-	-	-	-	-	-
神奈川県	1	0.00	3	0.01	23	0.11	98	0.48	2	0.05	44	1.05	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	3	0.05	-	-	19	0.32	-	-	6	0.67	-	-	-	-	-	-
富山県	2	0.07	-	-	-	-	9	0.31	-	-	2	0.29	-	-	-	-	3	0.60
石川県	2	0.07	-	-	1	0.03	1	0.03	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	2	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	3	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	1	0.02	-	-	-	-	19	0.37	-	-	17	1.70	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1	0.02	-	-	1	0.02	5	0.12	-	-	2	0.22	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	2	0.02	-	-	55	0.64	-	-	5	0.25	-	-	-	-	1	0.11
愛知県	3	0.02	3	0.02	2	0.01	46	0.25	-	-	18	0.51	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	1	0.02	2	0.04	21	0.47	-	-	2	0.17	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	2	0.07	11	0.37	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
京都府	1	0.01	-	-	1	0.01	20	0.26	-	-	4	0.22	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	4	0.02	35	0.19	45	0.24	5	0.10	29	0.56	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.01	7	0.06	12	0.09	52	0.41	1	0.03	18	0.51	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	1	0.03	28	0.80	-	-	14	1.56	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	16	0.50	9	0.28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	3	0.16	-	-	12	0.63	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	12	0.52	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	3	0.06	-	-	10	0.19	-	-	15	1.25	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	1	0.01	-	-	47	0.63	-	-	17	0.85	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	54	1.10	-	-	11	1.22	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	1	0.04	-	-	8	2.00	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	3	0.09	17	0.53	7	0.22	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	1	0.03	-	-	7	0.18	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	1	0.03	20	0.65	1	0.33	6	2.00	-	-	-	-	1	0.14
福岡県	-	-	3	0.04	2	0.03	33	0.42	-	-	21	1.17	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	1	0.04	-	-	8	0.35	-	-	4	1.00	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	7	0.16	2	0.25	7	0.88	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.02	1	0.02	-	-	20	0.41	-	-	12	1.33	-	-	-	-	1	0.07
大分県	-	-	3	0.08	2	0.06	2	0.06	-	-	4	0.80	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	-	-	1	0.03	29	0.78	-	-	6	1.50	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	1	0.02	-	-	1	0.02	10	0.17	-	-	13	2.17	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	2	0.06	-	-	1	0.03	1	0.10	16	1.60	1	0.14	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年6週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	16	0.04	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	2	0.17	-	-	-	-
秋田県	1	0.17	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.08	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	1	0.08	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.11	-	-	-	-
愛知県	1	0.08	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	4	0.19	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	3	0.43	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第6号 平成12年2月25日発行  
発行：国立感染症研究所

厚生省保健医療局結核感染症課  
厚生省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
TEL：03-5285-1111  
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html

<国立感染症研究所 感染症情報センター>  
http://www.mhw.go.jp/  
<厚生省>  
http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/  
<成田空港検疫所>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。